

福岡市美術館リニューアル事業

審査講評

平成 27 年 11 月 30 日

福岡市美術館リニューアル事業者選定委員会

< 目 次 >

I	事業者選定委員会	1
1	事業者選定委員会の構成	1
2	事業者選定委員会の開催経過	1
II	審査結果	2
1	入札参加資格審査	2
2	提案審査	2
(1)	提案書類及び入札価格の確認	2
(2)	基礎審査	2
(3)	提案内容に係る評価	2
III	審査講評	6
1	事業実施に係る項目	6
2	設計・建設に係る項目	7
3	開館準備に係る項目	11
4	維持管理に係る項目	12
5	運営に係る項目	14
6	その他	17
7	総評	18

福岡市美術館リニューアル事業者選定委員会は（以下「選定委員会」という。）は、福岡市美術館リニューアル事業（以下「本事業」という。）に関して、落札者決定基準（平成 27 年 4 月 2 日公表）に基づき、提案内容等の審査を行いましたので、審査結果及び審査講評をここに報告します。

平成 27 年 11 月 30 日

福岡市美術館リニューアル事業者選定委員会
委員長 坂井 猛

I 事業者選定委員会

1 事業者選定委員会の構成

事業者選定委員会の構成は以下のとおりである。

委員長	坂井 猛	九州大学新キャンパス計画推進室教授・副室長
副委員長	美原 融	大阪商業大学総合経営学部教授
委員	西村 勇晴	北九州市立美術館館長
委員	東原 克行	株式会社前川建築設計事務所プロジェクト・チーフアーキテクト
委員	落石 稔彦	福岡市経済観光文化局理事

2 事業者選定委員会の開催経過

事業者選定委員会の開催経過は、以下のとおりである。

回数	開催日	主な議題
第1回	平成26年10月4日	実施方針について、館内見学
第2回	平成26年11月8日	実施方針、要求水準書(案)について
第3回	平成27年2月7日	落札者決定基準、選定スケジュールについて
第4回	平成27年10月25日	ヒアリング、提案審査、最優秀提案者の選定
第5回	平成27年11月26日	審査講評(書面評決)

Ⅱ 審査結果

審査は、事業者の参加資格を審査する「入札参加資格審査」、提案内容等を審査する「提案審査」に分けて実施した。

1 入札参加資格審査

平成 27 年 6 月 3 日の締切日までに、3 グループから入札参加表明及び入札参加資格審査書類の提出があり、入札説明書（平成 27 年 4 月 2 日公表）に規定する入札参加者の備えるべき参加資格要件の具備について審査した結果、いずれのグループも参加資格を有していることを確認し、各グループに対し平成 27 年 6 月 17 日付けで審査結果通知を送付した。

2 提案審査

平成 27 年 8 月 27 日に、入札参加資格を有する 3 グループから入札書等及び提案審査書類等が提出された。市及び選定委員会は、落札者決定基準に基づき以下の手順で提案審査を行った。

(1) 提案書類及び入札価格の確認

市は、提出書類がすべて入札説明書のとおり揃っていること、入札書に記載されて入札価格が市の設定する予定価格を超えていないことを確認した。

(2) 基礎審査

市は、各グループから提出された入札書等及び提案審査書類等について、いずれのグループも落札者決定基準に掲げる基礎審査項目を満たしていることを確認し、各グループに対し平成 27 年 9 月 15 日付けで審査結果通知を発送した。

(3) 提案内容に係る評価

選定委員会は、以下のとおり提案内容に係る評価を行った。なお、各グループを「Aグループ」、「Bグループ」、「Cグループ」とし、グループ及びグループを構成する企業を特定できない形で評価を行った。

① 定性的評価

選定委員会は、各グループの提案内容について、評価項目ごとに、主な評価のポイントを中心に加点審査を行った。

具体的には、全評価項目について、以下の 4 段階の得点化基準に基づき各委員の評価を点数化した後、評価項目ごとに委員の点数の平均を算出した。評価項目ごとの平均値を合計することにより定性的評価による内容点を算出した。

【得点化基準】

評価	評価基準	点数化の方法
A	特に優れた提案がある	配点×1.0
B	優れた提案がある	配点×0.6
C	やや優れた提案がある	配点×0.3
D	要求水準を上回る提案がない	配点×0.0

定性的評価による内容点は以下のとおりである。

No	評価項目	配点	Aグループ	Bグループ	Cグループ
1 事業実施に係る項目					
1-1	本事業実施における基本方針等	20	10.0	12.4	12.8
1-2	リスク想定と対策	20	8.4	9.6	12.4
1-3	事業継続性の確保	5	2.8	2.8	3.2
1-4	モニタリング	20	10.0	10.0	10.0
1-5	地域経済・社会への貢献	100	70.0	70.0	48.0
小 計		165	101.2	104.8	86.4
2 設計・建設に係る項目					
2-1	実施体制	10	5.0	5.8	5.8
2-2	前川建築の意匠継承	30	30.0	25.2	18.6
2-3	改修への取組方針	10	3.6	6.2	6.0
2-4	施設外観の景観への配慮	10	5.6	6.8	6.2
2-5	美術館のアプローチにおける空間の魅力	20	12.4	13.6	11.2
2-6	施設特性を踏まえた内部仕上げの魅力	20	11.2	10.8	12.4
2-7	ユニバーサルデザインへの配慮	25	15.5	15.5	14.0
2-8	展示室の魅力と整備への配慮	40	19.2	21.6	21.6
2-9	収蔵庫整備への配慮	40	14.4	28.0	28.0
2-10	講堂等の整備提案	20	7.2	9.6	14.0
2-11	建築設備の機能・品質の適切さ	10	4.2	5.0	4.2
2-12	LCCの縮減と省エネ対策の工夫	10	4.8	4.2	5.6
2-13	非常時の安全性の確保	10	5.2	4.4	6.2
小 計		255	138.3	156.7	153.8

No	評価項目	配点	Aグループ	Bグループ	Cグループ
3 開館準備に係る項目					
3-1	休館中の施設の維持管理	5	2.5	3.9	2.5
3-2	ブランディングに対する取組	5	2.5	2.8	2.5
3-3	リニューアルに関する広報活動	5	2.2	3.5	3.9
3-4	収蔵品等情報システムの魅力	20	12.8	11.2	12.8
小 計		35	20.0	21.4	21.7
4 維持管理に係る項目					
4-1	建築物等の機能・性能の保持	5	2.8	3.4	3.1
4-2	利用者の快適性の確保	5	3.5	2.7	2.8
4-3	空気調和設備の運転監視	10	6.2	5.6	7.0
4-4	環境衛生管理の取組	15	8.7	9.3	9.3
4-5	セキュリティ確保の取組	15	7.5	7.5	8.7
小 計		50	28.7	28.5	30.9
5 運営に係る項目					
5-1	実施体制と人材	20	14.0	12.8	14.0
5-2	開館日・開館時間	5	1.8	3.5	4.2
5-3	利用者対応の取組	30	15.0	18.6	21.0
5-4	意見・要望・苦情等への対応	5	2.5	3.5	3.1
5-5	施設の貸出における取組	10	4.4	6.2	6.2
5-6	常設展示における取組	15	8.4	10.5	9.3
5-7	特別企画展における取組	30	14.4	22.8	23.4
5-8	広報における取組	40	20.0	22.4	31.2
5-9	集客のための取組	40	16.8	22.4	24.8
5-10	ミュージアムショップの魅力	20	11.2	11.2	14.0
5-11	ミュージアムショップの収支計画	5	1.8	2.1	3.5
5-12	オリジナルグッズ開発	20	8.8	11.2	15.2
5-13	飲食施設の魅力	30	15.0	18.6	18.6
5-14	飲食施設の収支計画	5	2.8	2.4	3.1
小 計		275	136.9	168.2	191.6
6 その他					
6-1	提案全般に関する評価	20	11.2	12.0	15.6
内容点 合計		800	436.3	491.6	500.0

② 定量的評価

定性的評価の点数（内容点）が確定した後に、選定委員会に入札価格を開示し、入札参加者が提示する市が支払うサービス対価の総額（入札価格）について、以下の算式により定量的評価の点数（価格点）を算出した。なお、有効桁数は小数点第1位とし、小数点第2位は四捨五入した。

$$\text{価格点} = \frac{\text{提案のうち最も低いサービス対価の総額（入札価格）}}{\text{当該入札参加者の提示するサービス対価の総額（入札価格）}} \times 200 \text{ 点}$$

定量的評価による価格点は以下のとおりである。

	Aグループ	Bグループ	Cグループ
入札価格（円）	10,061,535,719	10,041,712,710	9,988,265,358
価格点	198.5	198.9	200.0

※入札価格には、消費税及び地方消費税を含まない

③ 最優秀提案者の選定

選定委員会において、内容点と価格点を合計して得られた値により総合評価点を算出し、総合評価点が最大となる提案を行ったCグループを、最優秀提案者として選定した。

	Aグループ	Bグループ	Cグループ
内容点	436.3	491.6	500.0
価格点	198.5	198.9	200.0
総合評価点	634.8	690.5	700.0

Ⅲ 審査講評

1 事業実施に係る項目

評価項目	審査講評
本事業実施における基本方針等	<ul style="list-style-type: none"> • Aグループは、市の基本コンセプトを発展させ、わかりやすくかつ全体提案との一貫性も高い事業者独自のコンセプトが提示されている点が評価された。 • Bグループは、市の全体施策と本事業を関連付けて整理し、美術館だけでなく他文化施設や大濠公園との関係を含めて目指す姿を整理した点が評価された。 • Cグループは、美術館事業及び本事業に対する高い理解度を背景に、事業者の使命と果たすべき役割を明確にした基本方針が掲げられている点が評価された。
リスク想定と対策	<ul style="list-style-type: none"> • いずれのグループも、それぞれのリスク分析等を踏まえた保険の追加、補償額の増額等が提案されていた。 • Aグループは、賠償責任保険に係る補償内容等が評価されたが、事業費増大リスクの発生時の対応については評価につながらなかった。 • Bグループは、リスク抽出分析の手法と抽出された各種リスクに係る対応策等が、緻密で具体性があると評価された。 • Cグループは、リスク抽出分析の手法に対する信頼性と、その発生の抑制策及び顕在化時の対応策の具体性、実行性が評価された。特に、美術館固有のリスクに関して十分に検討されている点が評価につながった。
事業継続性の確保	<ul style="list-style-type: none"> • いずれのグループも、本事業の業務内容を踏まえて、適切な担い手の選定とそれぞれ役割分担を明確にした実施体制が提案されていた。 • いずれのグループも、事業収支計画及び資金調達計画に関して、リザーブ資金の確保、追加融資枠の設定、金融機関との事前協議など、事業を安定して遂行するための提案がなされていた。なお、スプレッドの考え方においてCグループの透明性が高いとする意見があった。 • いずれのグループも、構成企業等の破たん時の対応については、株主間の協定締結やバックアップ体制の確保など、有効な措置が講じられていた。
モニタリング	<ul style="list-style-type: none"> • いずれのグループも、PFI 事業の経験やノウハウを活かして、複数視点や複層的なセルフモニタリング及びそれを踏まえた業務改善策が提案されており、業務品質の確保及び向上が期待される提案であると評価された。ただし、モニタリングの仕組みが複雑であるため、実行性や効率性が懸念されるという意見もあった。 • Aグループは、セルフモニタリングから市実施のモニタリングまでの

評価項目	審査講評
	<p>一貫した仕組みが、市との連携に効果的であると評価された。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Bグループは、業績指標を活用したモニタリングの仕組みの具体性や、情報システムを活用した市との連携方策が評価された。 • Cグループは、セルフモニタリングの体制構築の考え方、達成度を定量化する仕組み、利用者の声の把握方法を含めた業務改善策が評価された。
地域経済・社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> • 地域経済への貢献として、すべてのグループにおいて、地場企業への発注に積極的に取り組む計画が提案されていた。地域社会への貢献については、各グループとも、周辺地域との協働事業、文化・芸術の普及活動など、美術館を核とした優れた提案がみられた。 • Aグループは、地元企業への還元比率が高い点が地域経済への活性化への貢献につながると評価された。また、美術館や大濠公園の賑わいを創出する方策において優れた提案がみられた。 • Bグループは、地元企業への還元比率が高いこととあわせて、地元企業の資金負担を軽減させる方策を提案している点が評価された。また、地場製品の活用や美術館の周辺地域への貢献活動において優れた提案がみられた。 • Cグループは、地元企業への還元とそれを確実に履行する方法に関する提案が評価された。また、地場製品の活用や文化に関する人材育成において優れた提案がみられた。

2 設計・建設に係る項目

評価項目	審査講評
実施体制	<ul style="list-style-type: none"> • いずれのグループも、美術館の設計や施工の実績がある企業及び担当者などの配置がなされており、事業遂行するために必要な体制の構築がなされている点が評価された。また、市との連携が円滑に図れる協議体制の提案が評価された。 • Aグループは、開館当初の工事に詳しい担当者との連携について評価された。 • Bグループは、IPMに詳しい専門機関との協力体制が評価された。 • Cグループは、設計・監理各段階における業務の進め方に関する具体的で効果のある提案が評価された。
前川建築の意匠継承	<ul style="list-style-type: none"> • いずれのグループも、福岡市美術館の建築的特徴を理解した上で、前川建築の意匠継承について詳細な検討がなされており、その継承の考え方・方策について、適切かつ効果的な提案であると評価された。 • Aグループは、既存の意匠を生かしたロビー空間における改修の提案

評価項目	審査講評
	<p>や、新設するカフェなどの空間デザインが、前川建築の思想を継承した優れた提案であると評価された。また、意匠継承を的確に行うための検証方法が適切な提案であると評価された。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Bグループは、前川建築の意匠継承に加えて、エントランスロビーなどにおける新たな魅力の追加に関する提案が評価された。また、意匠継承を的確に行うための検証方法が適切な提案であると評価された。 • Cグループは、前川建築の設計思想を継承し、既存素材を有効活用する提案が評価された。
改修への取組方針	<ul style="list-style-type: none"> • Aグループは、耐久性・保守性への配慮、改修方法の検討に係る調査方法、改修工事の考え方について、適切な提案がなされているものの、オプションとする提案が含まれており、高い評価につながらなかった。 • Bグループは、外装材の耐久性向上に係る効果的な提案や、詳細な調査に基づく改修工事の施工方法について、細やかな配慮がなされた提案と評価された。 • Cグループは、外装材の耐久性向上に係る提案や、耐震性能の効果的な確認方法、意匠にも配慮した細やかな改修工事の提案が評価された。
施設外観の景観への配慮	<ul style="list-style-type: none"> • いずれのグループも、公園全体の景観に配慮した植栽計画や、美術館の魅力向上が期待できる外構照明計画について、具体的な提案がみられた。 • Aグループは、公園から眺める美術館の景観への配慮だけでなく、公園全体をアートのスペースと捉える提案が評価された。 • Bグループは、公園の様々な地点からの景観の検討をもとに、近景・遠景からの景観に細やかに配慮した提案が評価された。 • Cグループは、美術館の特性に配慮したライトアップの提案が評価された。
美術館のアプローチにおける空間の魅力	<ul style="list-style-type: none"> • いずれのグループも、新アプローチにおける賑わいの創出やエスプラナードの有効な利用方法について提案がみられた。 • Aグループは、アートに触れることができる屋外空間の提案が評価された。 • Bグループは、新アプローチについて、大濠公園との連続性や一体性を考慮した計画が評価された。また、エスプラナードから大濠公園への眺望に配慮した提案やイベントなどにも対応できる提案が評価された。 • Cグループは、新アプローチについて、美術館にふさわしいイベント

評価項目	審査講評
	などにも対応できる提案が評価された。
施設特性を踏まえた内部仕上げの魅力	<ul style="list-style-type: none"> • いずれのグループも、ロビー空間を魅力的に演出する照明デザインの提案や、利用者の利便性・快適性に配慮された提案がみられた。また、効果が期待できる暑さ対策の提案がみられた。 • Aグループは、現状のデザインを生かした統一感がある空間構成の提案が評価された。 • Bグループは、リニューアル感を創出する特徴ある提案のほか、利用者の視線や利便性、デザインに配慮された什器・備品に関する提案が評価された。 • Cグループは、美術鑑賞に対する高揚感が期待できる特徴のある提案や、利用者の視線や利便性に配慮された什器・備品に関する提案が評価された。
ユニバーサルデザインへの配慮	<ul style="list-style-type: none"> • いずれのグループも、施設整備に関する具体的な計画が、様々なハンディキャップを抱えた方や外国人など、すべての利用者の利便性やユニバーサルデザインに配慮した一定水準以上の提案であると評価された。また、利用者に分かりやすい表記や目的地へ利用者を導く効果的なサイン計画などが評価された。 • Aグループは、デザイン計画を作成する手法が評価された。 • Bグループは、プロセスを重視したユニバーサルデザインの効果的な検証方法が評価された。 • Cグループは、デザイン計画を作成する手法が評価された。
展示室の魅力と整備への配慮	<ul style="list-style-type: none"> • いずれのグループも各展示室の特性を踏まえ、作品の展示環境や来館者の快適な観覧環境に配慮した提案がみられた。また、展示ケースについて、鑑賞に適した展示空間の演出や保存環境にも配慮した提案が評価された。 • Aグループは、空気質の汚染防止に効果がある内装材を使用し、作品の保存環境に配慮した提案が評価された。 • Bグループは、展示室の断熱性能を向上する提案や、空気質の汚染防止に効果がある内装材を使用し、作品の保存環境に配慮した提案が評価された。また、展示の多様性に対応できるよう、きめ細やかな空調システムの提案が評価された。 • Cグループは、各展示室までの空間演出や、上質な展示空間の創出が期待できる内部仕上げへの細やかな配慮、多様な鑑賞動線への対応など、来館者が快適に観覧できる環境に配慮した提案が評価された。また、高性能な照明設備による展示作品の演出や効率的な空調設備の提案が評価された。

評価項目	審査講評
収蔵庫整備への配慮	<ul style="list-style-type: none"> • いずれのグループも、公開承認施設である美術館の保存環境について、有害物質を発生しない内装仕上げ材の選定や、生物被害への効果的な対応策などに配慮した提案、保存環境の維持に有効な空調システムの提案がみられた。 • Aグループは、有害物質の効果的な排除対策、使用する材料の安全確認方法が評価された。 • Bグループは、断熱性能を向上させる提案や、結露に配慮した空調システムの提案のほか、特定の収蔵庫の保存環境を向上させるなど、作品保存を重視した効果的な提案が高く評価された。さらに、生物被害対策及び既存木製棚の取り扱いについて、具体的な提案が評価された。 • Cグループは、断熱性能を向上させる提案や、調湿機能の高い内装材を使用する提案のほか、収蔵庫の温湿度環境変化を少なくする効果的な提案が評価された。また、照明計画、空調設備計画及び防災対策についても有効性のある具体的な提案が評価された。
講堂等の整備提案	<ul style="list-style-type: none"> • いずれのグループも、利用者の利便性に配慮した提案がみられた。また、多目的スタジオについては、遮音性の高い内装材や耐水性に配慮した床材への改修などの提案がみられた。 • Aグループは、各諸室の利用者の多目的な利用に対応する提案がみられたが、講堂における客席からの視認性等を懸念する意見があった。 • Bグループは、講堂について、利用者の視線に配慮した客席配置の提案や、展示部門等へ配慮した防音仕様等の提案が、講演等の快適な聴講環境に配慮した提案であると評価された。 • Cグループは、子供たちの利用を考慮した講堂の客席に関する提案や、要求水準を上回る講堂やスタジオの改修計画に関する提案が評価された。また、講堂とスタジオを連携した教育普及部門全体での活動を可能にする設備計画の提案が評価された。
建築設備の機能・品質の適切さ	<ul style="list-style-type: none"> • いずれのグループも、美術館の特性を理解し、効率的で機能的な設備機器を設置する提案が評価された。 • Aグループは、施設の安全性に配慮した設備機器設置の提案がみられた。 • Bグループは、空調設備について、作品保存環境の安全性に配慮した細やかな提案が評価された。 • Cグループは、設備機器等の運用期間中における定期的な運転改善に関する提案がみられた。
LCCの縮減と省エ	<ul style="list-style-type: none"> • Aグループは、省エネ対策の工夫やCO₂削減等に効果的な提案が評

評価項目	審査講評
ネ対策の工夫	<p>価された。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Bグループは、省エネ対策の工夫やエネルギー算定における細やかな検討が評価された。 • Cグループは、省エネ対策の工夫のほか、項目ごとの具体的な省エネ計画の提案が評価された。
非常時の安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> • いずれのグループも、非常時における安全確保について、具体的で有効性の高い提案がみられた。 • Aグループは、インフラ遮断に備えた有効な対策が評価された。 • Bグループは、設備機器等の機能維持に関する提案が評価された。 • Cグループは、施設の機能維持に関する提案や作品保護に関する有効な提案が評価された。

3 開館準備に係る項目

評価項目	審査講評
休館中の施設の維持管理	<ul style="list-style-type: none"> • いずれのグループも、空調監視及び警備について詳細な提案がなされており、美術品の保護及び防犯・防災に対して一定の効果が期待できる提案であった。 • Aグループは、要求水準にない清掃の提案が評価された。 • Bグループは、空調監視及び警備の充実した体制が評価された。また、空調監視における非常時の備えに優れた提案がみられた。 • Cグループは、空調監視における非常時の備えに優れた提案がみられた。
ブランディングに対する取組	<ul style="list-style-type: none"> • いずれのグループも、ブランディングに対する独自の考え方を明示したうえで、美術館のブランド力向上が期待できる具体的な提案がなされていた。 • Aグループは、ハード面でのブランディングの具体的な取り組みに優れた提案がみられた。 • Bグループは、ロゴ・シンボルマークの活用の方針に優れた提案がみられた。 • Cグループは、ブランディングにおけるソフト面での具体的な取り組み、ロゴ・シンボルマーク作成手順に優れた提案がみられた。
リニューアルに関する広報活動	<ul style="list-style-type: none"> • いずれのグループも、リニューアルの周知と開館後の集客に一定の効果が期待できる、多様な広報と多彩なオープニングイベントが提案されていた。 • Aグループは、構成員を活用した実現性の高いリニューアル広報が提案されていた。

評価項目	審査講評
	<ul style="list-style-type: none"> • Bグループは、計画的な広報活動と、賑わいを持続させながら認知度を高めていくオープニングイベントの考え方が評価された。 • Cグループは、多種多様な広報活動と早期からイベントを実施する提案が評価された。
収蔵品等情報システムの魅力	<ul style="list-style-type: none"> • いずれのグループも、一定の導入実績のあるシステムを提案しており、必要十分な機能と利便性を有する提案であった。また、システムの陳腐化対応やセキュリティの確保についても、十分な結果が期待できる提案であった。 • Aグループは、情報コーナーに係る様々な機能・仕掛けについて、機能的で使いやすいシステムであると評価された。 • Bグループは、多様な検索対応とホームページとの連動の提案が評価された。 • Cグループは、データベース活用の方策や情報コーナーで使用する端末の提案が、利用者にとって魅力的で利便性が高いと評価された。

4 維持管理に係る項目

評価項目	審査講評
建築物等の機能・性能の保持	<ul style="list-style-type: none"> • いずれのグループも、建築物等の機能を最適な状態に保つため、日常点検などにより施設の状態を適切に把握し、予防保全を的確に行うことで、施設・設備の延命化を図る具体的な提案がみられた。また、関係者間での管理データの情報共有やデータの分析、維持管理企業との連携など施設の維持管理に有効な提案がみられた。 • Aグループは、通常の施設点検に加えて予防保全に効果的な点検を実施する提案がみられた。 • Bグループは、独自の情報共有システムが、建築物等を常に機能・性能を発揮できる状態を保つことが期待できるとともに、業務の効率化につながる提案と評価された。また、事業終了後に備えた適切な修繕計画が評価された。 • Cグループは、業務経験が豊富な担当者の配置、施設や備品を監視するシステムの導入により、業務の効率化が期待される提案や、維持管理における総合的な計画立案が評価された。
利用者の快適性の確保	<ul style="list-style-type: none"> • いずれのグループも、エリアの特色に応じた清掃や清掃の実施タイミング等において、利用者の快適性を考慮した提案がなされていた。 • Aグループは、美術品への影響に配慮した資機材の選定や清掃業務に対するチェック体制に優れた提案があった。 • Bグループは、清掃業務に対するチェック体制が評価された。

	<ul style="list-style-type: none"> • Cグループは、美術品への影響や IPM に配慮した資機材の選定に優れた提案があった。
空気調和設備の運転 監視	<ul style="list-style-type: none"> • いずれのグループも、効果的な監視システムや、異常発生時における現場での対応策とバックアップ体制など、美術品の適切な保存環境の保持について具体的な提案がみられた。また、システムを活用したデータの蓄積・分析の実施及びそれを踏まえた運転の見直しなど、省エネが期待される提案がみられた。 • Aグループは、美術品の保存環境の保持について、空調設備を二重監視する提案が評価された。また、空調設備の管理基準を要求水準より厳しく設定した監視方法が、美術品への影響を最小限にとどめる配慮がなされていると評価された。 • Bグループは、空調設備の管理基準を要求水準より厳しく設定した監視方法が、美術品への影響を最小限にとどめる配慮がなされていると評価された。 • Cグループは、美術品の保存環境の保持について、空調設備を二重監視する提案のほか、工夫された収蔵庫の監視方法が評価された。また、空調設備の異常発生時に備えた計画が、美術品への影響を最小限にとどめる配慮がなされていると評価された。
環境衛生管理の取組	<ul style="list-style-type: none"> • いずれのグループも、適切なマニュアルの策定や担当だけでなく職員全体で IPM に取組む体制など、効果的な IPM が期待できる提案がなされていた。 • Aグループは、具体的で効果が期待できるマニュアルが詳細に提案されている点が評価された。 • Bグループは、専門機関と連携した計画・マニュアルの策定や日常的な監視体制が評価された。 • Cグループは、頻繁な調査の実施や利用者にも IPM の重要性を周知する取組が評価された。
セキュリティ確保の 取組	<ul style="list-style-type: none"> • いずれのグループも、人的警備と機械警備を組み合わせることで、少ない人員で効果的な警備を実現する提案がなされていた。また、入退館管理、巡回警備、各種訓練に、優れた提案がみられた。 • Aグループは、収蔵庫エリアのセキュリティ向上に優れた提案がみられた。 • Bグループは、収蔵庫エリアのセキュリティ向上に優れた提案がみられた。 • Cグループは、美術品の破損・汚損の未然防止及び美術品への被害発生時の対応が、具体的かつ効果的であると評価された。

5 運営に係る項目

評価項目	審査講評
実施体制と人材	<ul style="list-style-type: none"> • いずれのグループも、適切な人員体制や明確な採用方針、市職員との緊密な連携など適切な運営が期待できる提案や、充実した研修の実施などスタッフ資質向上に資する提案がみられた。 • Aグループは、スタッフのノウハウ蓄積・継承のための考え方に優れた提案がみられた。 • Bグループは、スタッフのノウハウ蓄積・継承のための考え方に優れた提案がみられた。 • Cグループは、職場環境の整備において、従事者に配慮した優れた提案がみられた。
開館日・開館時間	<ul style="list-style-type: none"> • Aグループは、現状を尊重した開館延長が提案された。 • Bグループは、経験に基づいて効果が期待できる開館延長を提案している点が評価された。 • Cグループは、具体的な根拠に基づいて、効果が期待できる開館延長及び講堂・多目的スタジオの時間外利用を提案している点が評価された。
利用者対応の取組	<ul style="list-style-type: none"> • いずれのグループも、ホスピタリティを重視した丁寧な利用者対応、多種多様な情報提供、多様な利用者に配慮した設備・備品など、利用者の利便性向上につながる優れた提案がみられた。 • Aグループは、外国人利用者への配慮において優れた提案がみられた。一方、代表電話対応や大濠公園の園路管理の実効性について疑問が残った。 • Bグループは、外国人利用者に配慮した多言語対応や情報コーナーの管理において優れた提案がみられた。 • Cグループは、人的対応、設備の両面において利用者目線に立ったきめ細かな提案がみられた。また、情報コーナーの提供情報において優れた提案がみられた。
意見・要望・苦情等への対応	<ul style="list-style-type: none"> • いずれのグループも、利用者からの意見等を積極的に受け付け、それらを共有し運営に生かすための一定水準以上の提案がみられた。 • Bグループは、利用者からの意見を収集する手法に優れた提案がみられた。 • Cグループは、意見収集の姿勢や利用者に対応結果を周知する取組が評価された。
施設の貸出における取組	<ul style="list-style-type: none"> • いずれのグループも、施設の稼働率向上が期待できる提案がみられた。 • Bグループは、施設利用の周知方法や利用者のサポートに優れた提案

評価項目	審査講評
	<p>がみられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cグループは、貸出備品の整備の提案が利用者本位であると評価された。
常設展示における取組	<ul style="list-style-type: none"> • Aグループは、利用者への鑑賞ルールの周知、外国人への配慮において優れた提案がみられた。 • Bグループは、監視員の役割を具体的に提示するとともに、利用者への鑑賞ルールの周知、観覧料収納の利便性において優れた提案がみられた。 • Cグループは、監視員の役割を具体的に提示するとともに、監視員に対する研修、観覧料収納における外国人への配慮において優れた提案がみられた。
特別企画展における取組	<ul style="list-style-type: none"> • Aグループは、特別企画展の出資について前向きに取り組む姿勢を評価する意見があった。 • Bグループは、特別企画展の実績を活かした人員体制や、構成員等によるサポート体制が評価された。また、特別企画展への出資検討や企画自体を提案する姿勢を評価する意見があった。 • Cグループは、特別企画展の実績を活かした人員体制や、構成員等によるサポート体制が評価された。また、様々な主催者との協力が期待できる提案も評価につながった。
広報における取組	<ul style="list-style-type: none"> • いずれのグループも、広報が網羅的に提案されており、美術館の効果的なプロモーションが期待できる提案であった。また、いずれのグループも十分な経験を有する者の配置と、関係企業による手厚い支援体制が提案されていた。 • Aグループは、常設展の広報及び関連イベントに多くの優れた提案がみられた。 • Bグループは、美術館と利用者との接点を意識した基本方針が評価された。また、広報物の発行や常設展のイベントにおいて優れた提案がみられた。 • Cグループは、ターゲットとタイミングを意識した広報戦略が評価された。また、常設展における多様な広報・イベントの提案、広報物の独自提案、ホームページの充実など、各分野において特徴的な取り組みがなされている点が評価された。
集客のための取組	<ul style="list-style-type: none"> • いずれのグループからも、美術館の集客に資するイベントについて積極的な提案がみられた。 • Aグループは、イベントを実施する時期に関する提案が評価された。 • Bグループは、事業者の運営コンセプトを具現化するための集客イベ

評価項目	審査講評
	<p>ントが数多く提案されている点が評価された。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cグループは、美術館のイベントであることを理解した上で、イベントの提案がなされている点が評価された。また、グループ企業のネットワークを活用した魅力的かつ実現性の高い集客イベントと確実性のある原資の確保が評価された。
ミュージアムショップの魅力	<ul style="list-style-type: none"> • いずれのグループも、他館での実績を有する事業者の運営による魅力的なミュージアムショップが提案されており、現状を大きく上回る提案であった。また、配置計画についても、それぞれコンセプトの異なる特徴的な提案がなされていた。 • Aグループは、専門知識を有する職員の配置が評価された。 • Bグループは、明確なコンセプトに基づく、多種多様な販売物品の選定が評価された。 • Cグループは、調査及び実績を踏まえた物品選定、価格設定、想定客層の提案が具体的で実現性が高いと評価された。また、利用者への配慮、飲食施設との連携などの提案も評価につながった。
ミュージアムショップの収支計画	<ul style="list-style-type: none"> • Aグループは、事業継続の取り組みに優れた提案がみられた。一方、収支計画の根拠の具体性に欠けるという意見があった。 • Bグループは、一定の根拠に基づいた収支計画の提案が評価された。 • Cグループは、一定の根拠に基づいた収支計画と多様な事業継続の取り組みが評価された。また、賃料についても収支計画を踏まえた上で、要求水準を上回る提案が評価された。
オリジナルグッズ開発	<ul style="list-style-type: none"> • Aグループは、観光土産を開発するという方針と館外の店舗にも販路がある点が評価された。 • Bグループは、美術館のブランド価値を高める開発方針、要求水準を上回る開発商品数が評価された。 • Cグループは、市との連携、美術館のプロモーション、開発自体の話題性を意識した開発方針と、要求水準を大きく上回る開発商品数が評価された。
飲食施設の魅力	<ul style="list-style-type: none"> • いずれのグループも、それぞれのコンセプトのもと、美術館及び大濠公園と調和した飲食施設が提案され、魅力の向上が期待できる提案であった。 • Aグループは、安全衛生管理の取り組みに優れた提案がみられた。 • Bグループは、具体的な運営者の提案や明確なターゲットなどから、実現性の高い提案であると評価された。また、レストランにおける地域貢献に関して優れた提案があった。 • Cグループは、具体的な運営者の提案や、検討過程や結果の詳細な記

評価項目	審査講評
	載などから、よく検討された実現性が高い提案と評価された。また、カフェとレストランの連携に関する提案も評価された。
飲食施設の収支計画	<ul style="list-style-type: none"> • Aグループは、売上見込みが意欲的な点が評価された。一方、収支計画の根拠の具体性に欠けるという意見があった。 • Bグループは、一定の根拠に基づいた収支計画が評価された。 • Cグループは、多様な事業継続の取り組みが評価された。

6 その他

評価項目	審査講評
提案全般に関する評価	<ul style="list-style-type: none"> • Aグループは、提案書やプレゼンテーションを通じてわかりやすい提案がなされている点が評価された。 • Bグループは、全体的に美術館の施設特性を踏まえた提案が優れていた。また、提案書やプレゼンテーションから感じられる本事業に対する強い熱意は評価できるものであった。 • Cグループは、自らの役割を明確にし、堅実でありながら積極性も見られる提案がなされていた。また、具体的で実現性の高い提案と全体的にまとまりのある提案により、グループとして安定感があると評価された。

7 総評

本事業は、我が国を代表する建築家である故前川國男氏の設計による建築物の継承、老朽化した施設・設備の現代ニーズに即した改修、学芸員との連携や社会教育施設という役割を意識した維持管理・運営に加え、集客交流拠点という美術館が担う新たな役割の遂行が求められた、非常に難度の高い事業でした。また、RO方式による美術館のPFI事業は、我が国初の取り組みとなります。このため、提案に当たっては、本事業の特性の十分な理解と、これまで民間事業者が培ってきた経験・ノウハウを十分に活用し、美術館の抱える課題の解決と魅力の向上という目的を達成するための質の高い提案が期待されました。

今回、本事業にご参加いただいた3グループからは、各グループの実績・経験に基づき、本事業に必要となる各種ノウハウが最大限に活用され、また公的主体では発想できないような素晴らしい提案、そして何よりも大変心のこもった熱意のある提案をいただきました。改めて厚くお礼を申し上げる次第です。

各グループともに、非常に意欲的に数多くの要求水準を上回る提案をいただき、優劣をつけることが大変難しい審査でした。また、各グループの提案を通して、リニューアル事業への期待感が高まるとともに、将来の施設及び運営のイメージを関係者で共有することができたのは本選定の成果と考えます。どのグループも本事業を遂行する実力を十分有しておりましたが、中でも事業実施、設計・建設、開館準備、維持管理、運営の各項目でバランス良く優れた提案がされていた「Cグループ」を最優秀提案者として選定しました。最優秀提案者の提案は、美術館の特性を踏まえて本事業における自らの役割を明確にし、個々の内容で具体的かつ安定感のある提案がなされていることが、わずかではありますが他のグループとの評価の差につながりました。

なお、選定された「Cグループ」においては、円滑な事業実施に向け、今後、市と具体的な協議を重ね、新たなパートナーシップのもと、本事業の目的が達成されることを期待します。

今後、最優秀提案者として選定された「Cグループ」が、事業者選定委員会から評価された具体的な提案内容を確実に実行することは当然のこと、本事業をさらによりよいものとするため、今後市と十分な協議を行い、より積極的な姿勢で事業に取り組まれることを期待します。特に、以下の点について配慮されることを要望します。

- 地域・社会への貢献に関する提案内容の確実な実行とさらなる貢献策の検討
- 大濠公園から美術館への誘客を目的とした新アプローチの魅力向上
- 15年の運営期間において市や利用者と良好なパートナーシップを築ける人材の選定
- 市の実施する教育普及事業と事業者が実施するイベントの役割分担の明確化
- 実施検討中となっている一部集客イベントについて実施に向けた前向きな検討
- 50年後、100年後も良い美術館であり続けることを目指した市との連携